

農の日常 丁寧に

実録映画が完成

東京で
あす公開

農のある生活の尊さを描いたドキュメンタリー映画「空想の森」が、26日から東京のポレポレ東中野（中野区）で公開される。北海道で映画作りに携わる監督の田代陽子さん（40）が、7年越しで作上げた初作品。土や自然と向き合いながら、力強く生きる農家の姿を通し、本当の豊かさや幸せとは何かを問い掛ける。

映画の舞台は北海道新得町。農場で共同生活を送る人々、農業に生きがいを感じる2家族の日常生活を通して、農のある暮らしを描いた。共働学舎新得農場から独立を思い悩む若い夫婦、機械を極力使わず、自力で土や草と格闘する熟年夫婦に焦点を当てた。大地をほう農作業、食卓を囲む和やかな時間、豊作にこぼれる笑顔――。農家の自然な日常を丁寧に追った。

新得町住民の手作り映画祭に感銘を受け、この世界に飛び込んだ。廃校になった小学校に泊まり込み、長い時間をかけて被写体の家族と向き合った。「映画作りを通じて、人との結び付きが強まった。自分たちで楽しみをつくり上げるエネルギーを感じた」と振り返る。

秋からは全国各地で自主上映会を開く。9月には「あいち国際女性映画祭」でも上映される。



農のある暮らしを描いたドキュメンタリー映画「空想の森」のシーン